



ハタハタ 日本海西部系群 令和3年度資源評価結果

生物学的特性

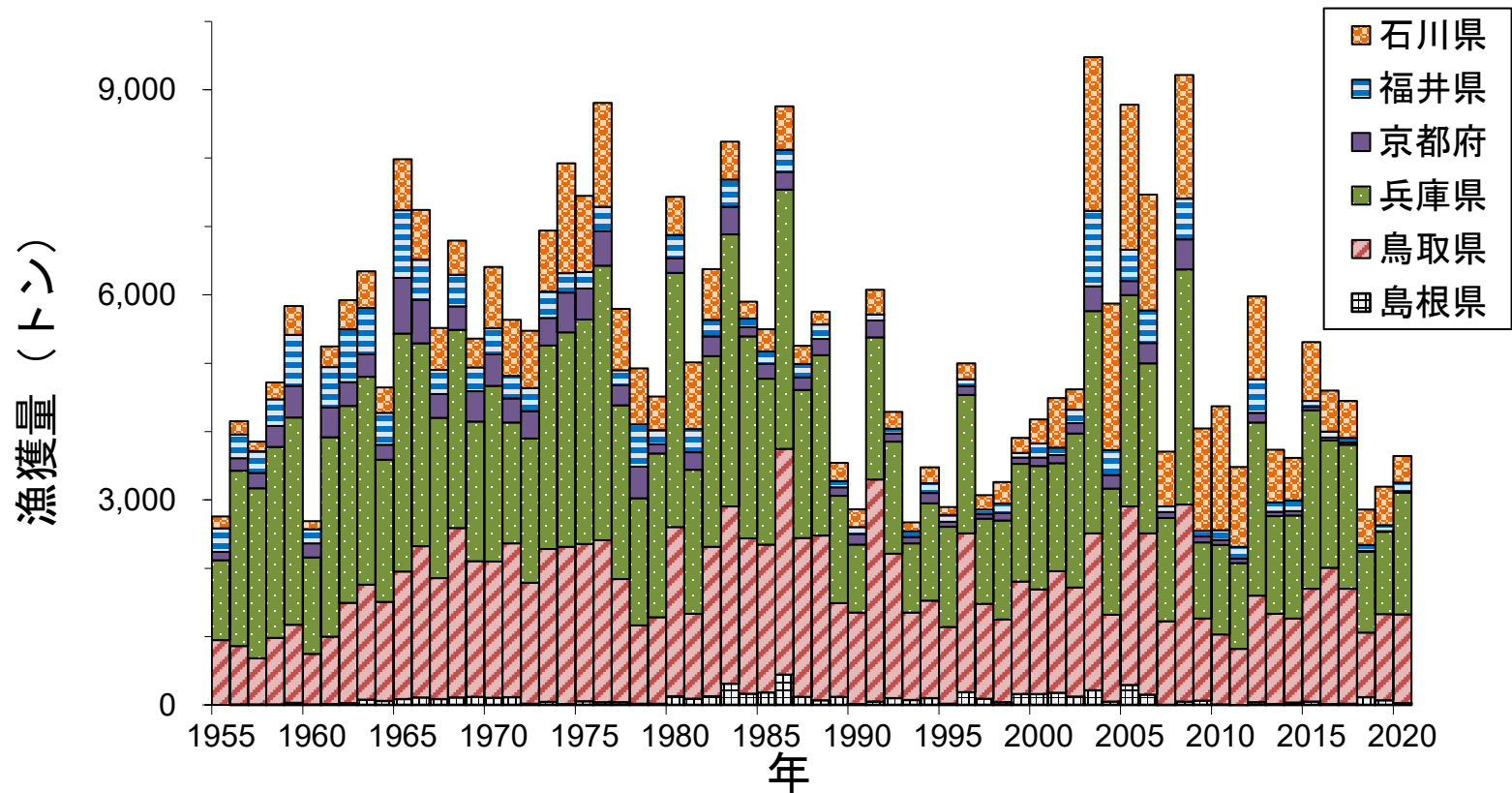


生物学的特性

- 寿命:5歳
- 成熟開始年齢:
雄1歳(50%)、2歳(100%)
雌2歳(100%)
- 産卵期・産卵場:
12月、秋田県および青森県得
沿岸、朝鮮半島東岸
- 食性:
端脚類、橈脚類、オキアミ類、
イカ類、魚類
- 捕食者:
マダラ、アカガレイ

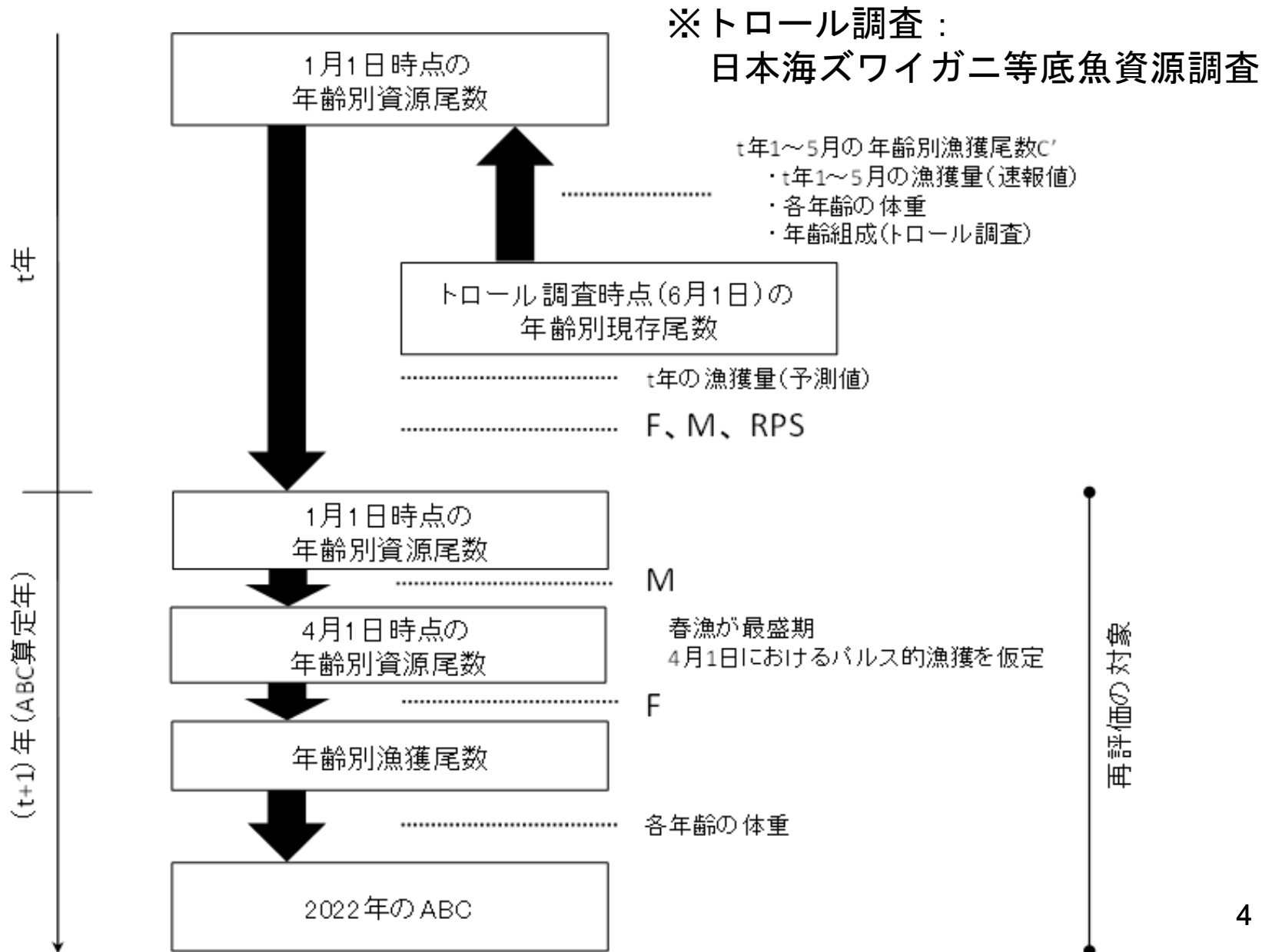
・ 主漁期は3～5月で9～10月も漁獲されるが春より少ない

漁獲の動向

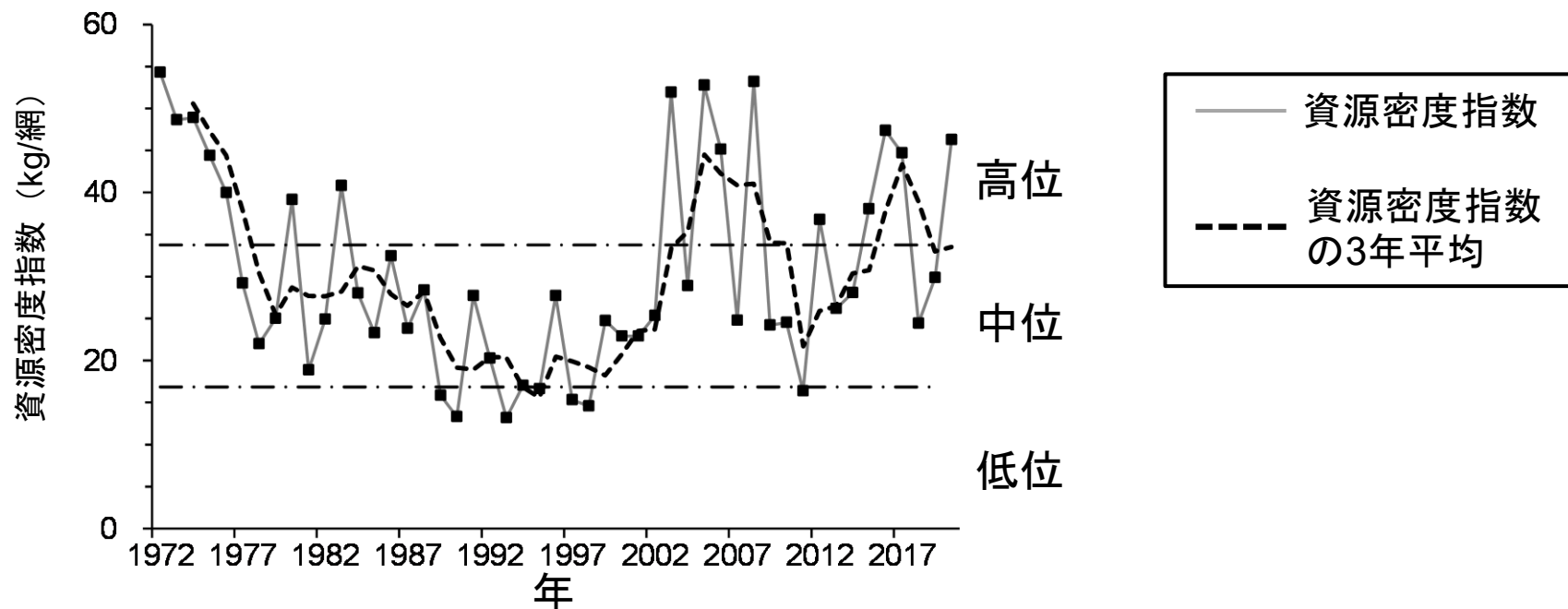


- 2020年の漁獲量：3,644トン、2019年（3,194トン）
- 主な漁獲：兵庫県、鳥取県、次いで石川県
- 兵庫県と鳥取県は全て沖合底びき網1そうびき（沖底）、石川県、福井県、京都府、島根県は小型底びき網が多い

資源評価の流れ



資源の動向①



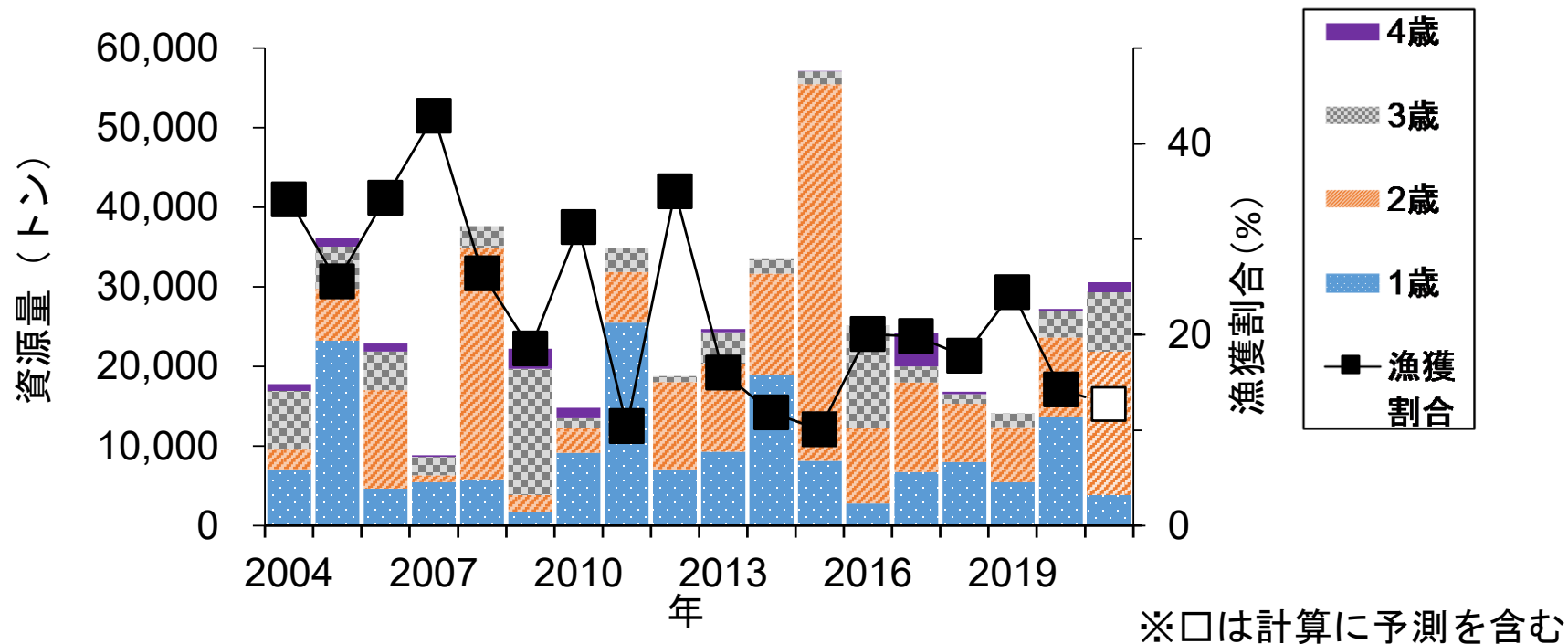
※水準区分：資源密度指数の3年（当年、前年、前々年）の平均値
低位／中位：資源水準指数16.9、中位／高位：資源水準指数33.7

- 沖底の資源密度指数：
1970年代前半50前後だったが、1993年に13.2となり
2003年以降は20～50前後で大きく増減、2020年は46.3

- 資源水準：
2018～2020年の資源密度指数の平均（33.5）から「中位」

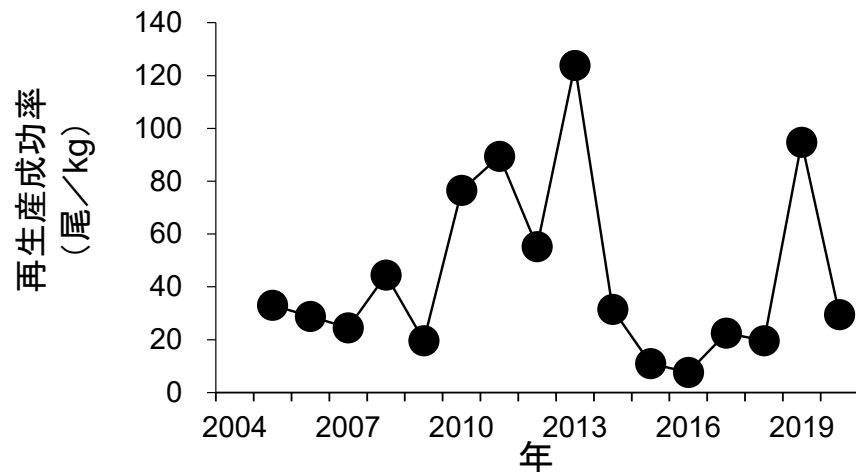
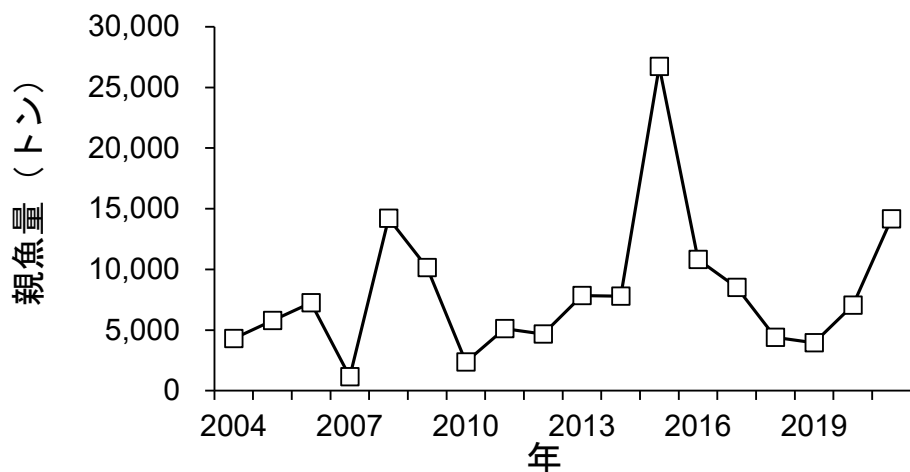
※資源密度指数：ハタハタが漁獲された月・漁区における1網当たり漁獲量の平均値

資源の動向②



- トロール調査に基づく資源量：
2004年以降9,000トン～5.7万トンと大きく変動
- 2021年資源量：30,613トン
- 資源動向：
直近5年間の資源量は減少後に増加しており「横ばい」
- 漁獲割合：2015年まで大きな変動を伴いつつ低下
2016年（20%）上昇後徐々に低下し、2021年は13%

資源の動向③



- トロール調査に基づく親魚量：
1,159トン～2.7万トンで推移、2021年は14,173トン
- 再生産成功率：
2010年以降高くなり、2013年に過去最高
2014～2018年は低く推移、2019年は上昇、
2020年29.5 (尾/kg)

※再生産成功率：単位親魚量あたりの加入尾数（尾/kg）であり、ハタハタ日本海西部系群では翌年加入量（1歳魚）を前年親魚量で除した値で示している

資源評価のまとめ

- 沖底の資源密度指数（3年平均）より、資源水準は中位
- トロール調査により推定した資源量より、動向は横ばい
- トロール調査により2004年以降の資源量、漁獲割合等を把握

2022年ABC

管理基準	Target/ Limit	2022年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.8F _{current}	Target	30	11	0.12 (-36%)
	Limit	37	14	0.15 (-20%)

- 0.8 : 中位・横ばいから決まる係数
- F_{current} : 2019~2021年の漁獲圧（F値）の平均
- 現状の漁獲圧（F_{current}=0.19）では資源量は減少
- 現状の漁獲圧をやや下げて、親魚量を維持するべき